

番所跡と手習所

1611年頃に尚寧王が各間切りに番所を設置、南風原間切番所は宮平に置かれました。宮平がドウ(中心)と言われるゆえんです。その後1898(明治31)年に間切役場、1908(明治41)年に南風原村役場に改称され、沖縄戦で行政機能が停止する1945(昭和20)年3月頃までその役割を担っていました。現在そのあとの一部に町立保育所が建てられ、地中には古井戸や石畳、排水溝など番所時代の遺構が保存されています。推定樹齢300年以上のフクギ並木がその名残り、町の天然記念物に指定されています。また番所と番所を結ぶ街道、幹線道路を宿道といいます。東風平、具志頭に至る、島尻方東海道といい、南風原番所は1番目の番所になります。

1868(明治元)年、中村渠筑親雲が首里奉公の中で覚えた学問を地元の子どもたちへ教えるためムラヤーに手習所を創設しました。学校の始まりです。南風原町において教育の発祥の地としても有名です。



宮平プロフィール

人口(男)…3,416人 世帯数…2,398世帯
(女)…3,491人 面積…163㌔²
合計…6,907人 2012(平成24)年1月現在



発行：特定非営利活動法人 南風原平和ガイドの会
住所：〒901-1113
沖縄県島尻郡南風原町字喜屋武257
南風原町立南風原文化センター内
電話・FAX：098-889-2533

平成23年 沖縄県雇用再生特別事業『シマジマガイド事業』

ひょーはるのドウ!

宮平

なーてーら



特定非営利活動法人 南風原平和ガイドの会

よこつなうたき
善綱御嶽

ウガンヌメーとも呼ばれ、宮平の村づくりをした善綱大屋子よこつなうたきが居住したと言い伝えられる善綱御嶽があり、後方にそのお墓があります。1949(昭和24)年、戦災で破壊された御嶽3ヶ所、宇内の拝所9ヶ所、カー(井戸)5ヶ所の神々を一ヶ所に集めウカミヤーを仮安置しました。

善繩嶽伝説



宮平に善綱大屋子という農夫がいました。大屋子は余暇に漁に行きました。ある日漁に出ると大きな亀が海中から浮かび上がり、驚いていると、どこからともなく婦人が現れ「汝亀を背負うて家に帰られよ」と言って消えてしまいました。大屋子はさっそく亀を背負って家路を急ぎましたが、途中亀が暴れ出し背を噛み大怪我をしてしまいました。気絶した大屋子は倒れたまま息絶えてしまい、村人は嘆き悲しみ手厚く葬りました。死後3日後墓参りの際、棺を開けてみると遺体はなくなっていました。驚いている



と「大屋子は死んだのではなく、神に召されニライカナイにいったのだ」という天の声が聞こえてきました。それから村人は大屋子の屋敷を「タキ」として祀るようになりました。

(「遺老説伝」より)

宮平の芸能

王府時代に王と同席して三味線を習うことを許された宮平ウファーが芸能を広めました。その影響で三味線弾きや舞踊家が連綿と出ています。

旧暦8月15日の夜遊びに演じられる演目の中心は、獅子舞や御冠船踊りの手だと言われる古典女踊りです。

獅子舞の獅子は宮平ウファーが王府勤めるとき拝領されたものでしたが、獅子は戦争で行方不明になり、ハワイ移民していた赤嶺登助氏が制作したものを譲り受けました。現在の獅子は3代目です。

大きなお祝いがある時は、獅子をノロ家からムラヤーに運び、道ジュネーを行います。猿小二人と獅子を先頭にガク・太鼓・ドラ・三味線の順に行われます。

獅子舞には7つの手があり、カクジシリーなど難しい技もあり、町指定無形文化財です。

かしかけ
総掛 (町指定無形文化財)

宮平の総掛は「干瀬節」「七尺節」「サアサア節」の三曲になっており、古典女踊りの伝統的な型を受け継いでいます。



手を取り合う仕草や髪形も特徴的

ワラビンチャーの遊び

二本松の東側に形の整ったきれいな丘がありました。その丘は富士山に似ていることから富士山小と呼ばれていました。松やソテツなどがあり、広場は芝生になっていたそうです。西側の傾斜面には茅が生い茂り、よく子ども達が板を持って、シンディー小ブッ(滑降)をして遊んでいました。ここでは、村運動会や角力大会なども開催されていました。

またメーガーラ(宮平川)とクシガーラ(国場川)のクムイ(水たまり)は子供たちの水遊びの場所で、エビやカニを捕って楽しんでいました。



ニーセーターは力勝負

ムラヤーにはサシ石(力石)があり、「ウムカシグワー」、「ムラー(ムリーイシ)」、「ウマヌミチ」、「シンイシ(イチバンイシ)」という名前がついていました。「ウマヌミチ」は馬蹄形をしていたそうです。一番重たい石で135斤(約81Kg)もあったそうです。若者たちが力勝負をしました。

1 善網御嶽 ヨコツナウタキ

ウガンヌメと呼ばれています。1949年字内の御嶽、拝所、カーの神々を集めウカミヤを仮安置しました。現在のウカミヤは2000(平成12)年に建て直したものです。後方に善網大屋子(よこつなうふやく)の墓があります。



11 二本松 ターチマーツ

富士山グーの西側に松の木がありました。二本あったのでそう呼ばれていましたが、一本が枯れてもそのままターチマーツと呼ばれていたそうです。現在の松は戦後植えられたものです。



10 アガリガー

集落の最西端にあり、周辺の家はここから正月の若水や産湯を汲みました。



9 ナカントゥモ

丘の上に石積みの拝所があり、宮平に最初に来たヘーマチガニーという人を祀ってありました。東大城門中の祖先が居住していたと伝えられています。現在森は敷きならされ、拝所は善網御嶽に合祀されています。

8 番所跡 バンジョアト

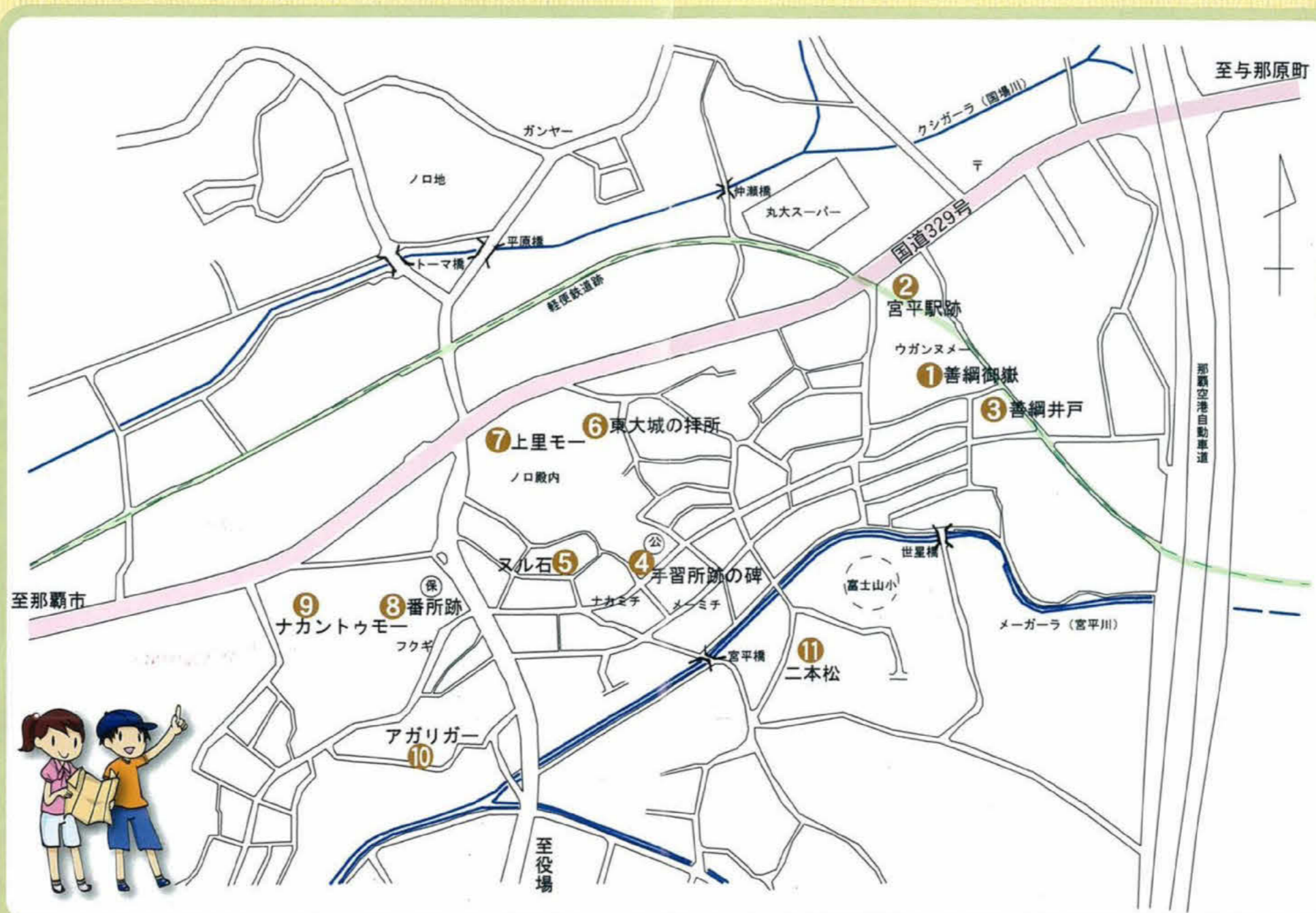
1611年ごろ、尚寧王が設置した南風原間切番所の跡です。

*フクギ

町指定天然記念物。推定樹齢300年の老木が今も残っています。



宮平まーい



2 軽便鉄道宮平駅跡

1914(大正3)年にできた軽便(沖縄県営鉄道)与那原線宮平駅がありました。無人駅で、駅の横に踏切があり、軽便が通る時踏切番が手で遮断機を下げ、通り過ぎると遮断機を上げました。

3 善網井戸 ヨコツナガー

善網御嶽の東南にあります。おいしい水が湧き、干ばつでも涸れることなくウプガー(産井戸)やワカミジ(若水)として利用されました。神ガーとも言われていました。



4 手習所 テナライジョ

1868(明治元年)、ムラヤーに手習所を創設しました。記念碑は1978(昭和53)年、公民館の庭に建立されました。



5 ヌル石

ノロが馬に乗る際に足をかけたヌル石が<山口>の屋敷囲い治いに残っています。ノロは代々<山口>から出ていました。



7 上里モー イーサトゥモ

小高い丘でトゥンチ(殿内)と呼ばれる拝所があり、瓦ぶきで中には3つの石と香炉が置かれていました。旧暦6月26日には、雨乞いのアミシの御願をしました。

6 東大城の拝所

東大城門中の先祖の居住跡、宮平の元屋の一つです。現在屋敷跡に位牌を祀る建物があります。正月、お盆は字の役員が拝みにいきます。

